

ビデオレターを通じての異文化交流活動がもたらす効果と意義

—タマサートの学生の成果物と振り返りからの考察—

山本 由美子

タマサート大学教養学部

山下 春菜

国際交流基金関西国際センター

本発表では、国籍の異なる日本語学習者同士によるビデオレターを通じての異文化交流という実践が、タマサート大学の学生にもたらした効果と意義について述べる。コロナウイルス感染拡大の影響により、タイ王国タマサート大学では2019年3月からオンライン授業を行ってきたが、日本語での交流の機会が極端に減り、学習者の日本語学習意欲の低下を懸念していた。そんな中、日本にあるS日本語学校の提案により、発表者らの担当する授業「初級聴解会話2」（初中級レベル）では、2021年1月から約3か月間、ビデオレターを通じて交流活動を実施することになった。交流相手は日本に在住し、S日本語学校で学ぶ中国、香港、マレーシア人の中上級学習者で、活動内容は自己紹介や相手への質問、相手のビデオレターへの感想やお礼を、ビデオレターを作成して伝え合うというものであった。日本語能力に差があり、時差などの関係によりライブでの交流もできなかったが、タマサート大学の学生が作成した、交流相手への質問や活動の振り返りから、この活動の成果として、学習意欲の喚起や異文化理解の深まり、メタ認知能力の向上がみられた。